

実践に
役立つ!

銘柄選びから売買タイミングまで
株式投資を強力にサポートする

電子版マネーセクション 使いこなし術

日本経済新聞 電子版(Web刊)は最新のニュースのみならず独自の情報、分析をすぐに入手できる個人投資家の強い味方だ。マネーセクションを使いこなして最強の投資家を目指そう!!



適時開示を
投資にビジネスに
役立てよう

マネーセクションの項目でぜひ活用して欲しいのが「適時開示速報」だ。適時開示情報が取引所ホームページに発表されるのと同時に掲載する。過去1年間にわたって閲覧でき、社名やキーワードで検索できる。

また、ランキングも閲覧でき、市場の注目度が高い情報が分かるのも便利だ。適時開示は株価に影響を与えるような情報を遅滞なく取引所に報告するのが主旨であり、企業に関する重大なニュースが新聞やテレビよりも早く出ることがある。投資家なら投資先、ビジネスマンなら取引先の情報を日経電子版で常にチェックしておけば、ライバルの一步先を行くことができそうだ。



step 1

「銘柄発掘」
難しい銘柄選びをサポートする

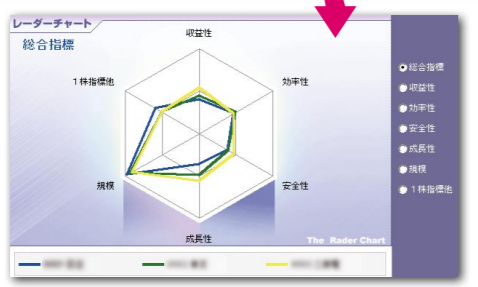


ポイント
今、おさえたい指標は「予想配当利回り」と「予想営業利益伸び率」あたり。さらに「予想売上高伸び率」や「ROE」もチェックしたい。「今はPERはあまり見ない方がいいかも。ミスジャッジにつながる可能性があります」(日本経済新聞社・電子報道部次長田中彰一氏)

株式投資の第一歩は銘柄選び。だが上場銘柄は4000近くあり選ぶのも容易ではない。そこで活用したいのがマネーセクションの「銘柄発掘」だ。これは投資金額や市場、重視する指標などを設定し銘柄を発掘する機能。分析対象指標は11項目、そのうち2つを選んで銘柄を分類、絞り込める。より簡単に発掘したい人は「利益成長力を重視する」「配当収入を重視する」などの項目でざっくりと銘柄群をピックアップ。さらに指標値を指定して銘柄を抽出できる。抽出結果は、立体表示、平面表示、一覧表示と3通りで見られる。立体表示では形によって銘柄がどこに集中しているかが一目で見取れる。平面表示では、ドラッグで範囲を指定し「抽出」ボタンを押すだけで銘柄を絞り込めて便利だ。絞り込んだ銘柄は一覧表示し、気になる銘柄は「銘柄フォルダ」へ登録しよう。銘柄フォルダでは機関投資家も銘柄の取捨選択に活用している「株式投資収益率」を期間を変えて閲覧できる。株式投資収益率は長期保有に値する銘柄かどうかを見極めるのに便利な指標。こうしたデータを活用し投資対象銘柄を見つけたい。

step 2

「銘柄比較分析レーダー」
銘柄を精査する



ポイント
グラフは大きく、六角形に近い形の方が投資先として優位。「総合指標」をはじめ、6つの観点を個々に比べることができる。銘柄をさらに絞り込みたい、決めたい、というときに活用したい。

膨大な数の銘柄を絞り込んだ後、投資対象を決めるためにやっておきたいことは財務内容などで銘柄を精査すること。便利なのは「銘柄比較分析レーダー」だ。収益性、効率性、安全性、成長性、規模、1株指標の6つの観点から計36もの指標を使って銘柄を比較分析できる優れたもの。企業利潤率や固定資産回転率、インタレストカバレッジ、などなど個人投資家の方はあまり見慣れない細かい業績・財務指標をしっかりとチェックできるのだ。といっても難しいことはない。比較検討したい銘柄を3つまで選び、銘柄名(証券コード)を入力すると、分析画面の下の方にグラフが表示されて、その優劣がはっきり分かる。

step 3

「売買タイミングを見極める」
プレミアムチャート



ポイント
短期的な需給を分析し、売買タイミングの見極めに有効とされる「価格帯別売買高」。上のグラフで横棒が張り出しているところが売買高が大きいところ。ここが需給の壁になりやすい。(※上はプレミアムチャート)

投資対象銘柄を決めた。それではいつから投資を始めよう? 投資において重要なのは銘柄選びと売買タイミングだ。電子版には誰でも使える「スマートチャート」と有料会員限定の「プレミアムチャート」がある。どちらも移動平均線はもちろん、一目均衡表、RSIなど様々なテクニカル分析ができる。例えば左のグラフは「価格帯別売買高」。どの価格帯で株価がもみ合い売買高が蓄積しているかがわかる。この累積売買高が大きいところが需給の壁になりやすい。その価格を見て今の価格で買って上値が期待できるかどうかなどの判断の参考にできる。様々な便利なデータがあるので、使いこなして賢く投資したい。

step 4

「ポートフォリオをチェックする」
ランキング/データ



順位	証券コード	銘柄名	銘柄フォルダへ登録	β(ベータ)値 (統計期間:1年)	関連情報
1				+2.84	銘柄比較分析レーダー
2				+2.25	銘柄比較分析レーダー
3				+2.24	銘柄比較分析レーダー
4				+2.84	銘柄比較分析レーダー
5				+2.84	銘柄比較分析レーダー

ポイント
β(ベータ)値はリスク判断の指標。β(ベータ)値が高いものばかりに投資しているのはハイリスク。逆に低いものばかりに投資しているのはローリスクだが株式投資の旨みはあまりない。

投資をするならば定期的にやってほしいのがポートフォリオの自己診断。こんな時代だからと安定を求めディフェンシブ株ばかりになっていたり、逆に値動きの激しい景気敏感株ばかりになっている、ということはないだろうか。どうチェックすればいいのか。リスク判断指標として、β(ベータ)値を活用してほしい。日経平均が10%動いた時に株価が10%動くならばβ値は「1」。つまり「1」というのは完全に連動している印だ。日経平均10%に対して20%動くならば、β値は「2」、景気敏感株だ。β値が「0.5」とか「0」など低い値の場合はディフェンシブ株といえる。β値を見ることで、保有銘柄のバランスをチェックできる。